

令和5年4定 一般質問 開催状況

開催年月日 令和5年12月5日

質問者 日本共産党 丸山 はるみ 議員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p>四 地方交通について</p> <p>(一) 並行在来線について</p> <p>1 次回ブロック会議の開催について</p> <p>地方交通についてです。</p> <p>北海道新幹線札幌延伸に伴い、小樽・長万部間の並行在来線、いわゆる山線をバス転換する方針に関して、今年5月、北海道新幹線並行在来線対策協議会第16回後志ブロック会議が開催され、バス転換後のバス運行に向けた検討状況について議論されました。この会議は、座長である交通企画監の「関係するバス事業者に協力を求めていくことで、進める」という発言で閉会となつて以降、次回開催予定を10月か11月としたはずが、いまだ開催されていません。</p> <p>事務局である北海道は、次回ブロック会議の開催に責任があるのですが、開催が遅れています。その理由及び開催の見通しを伺います。</p> <p>2 バス転換見直しについて</p> <p>バス転換の議論は、鉄道ダイヤの運行本数を基本とし、住民の利便性を確保していくことを前提として進められてきましたが、全道的なバス運転手不足の拡大により実現は困難ではありませんか。</p> <p>住民の利便性確保という前提が崩れかねないバス運転手不足の現状を直視し、北海道新幹線延伸後の並行在来線のあり方を検討し直す必要があると考えますが、道の見解を伺います。</p> <p>(二) 夕鉄バスの路線廃止について</p> <p>1 路線の減便・廃止に対する知事の見解について</p> <p>札幌ー夕張間を走る夕鉄バスが9月30日をもって、3路線を廃止しました。2019年4月、当時夕張市長だった鈴木知事が「攻めの廃線」と述べ、JR夕張支線廃止をすすんで決断し、バス転換しましたが、わずか4年半でバス路</p>	<p>【交通企画監】</p> <p>並行在来線につきまして、はじめに函館線「長万部・小樽間」の協議状況についてでございますが、後志地域における新たな交通体系の検討にあたりましては、並行在来線対策協議会后志ブロック会議での議論を踏まえ、本年6月以降、関係するバス事業者の協力を得ながら、長大路線であります「長万部・小樽間」を4つの区間に分けまして、利用実態や地域の実情を考慮した具体的な運行ルートやダイヤなどに関し、関係者間の協議を進めているところでありますが、現時点においては、関係するバス会社や沿線自治体と必要な調整などが継続しているところであり、当初予定しておりました10月から11月でのブロック会議への報告を見送ったところでございます。</p> <p>道といたしましては、次回ブロック会議の開催に向けて、関係者の方々と一層の連携を図りながら適時適切に対応してまいりたいと考えてございます。</p> <p>【交通企画監】</p> <p>地域交通の確保についてでございますが、経営分離後の地域交通の確保方策の検討にあたりましては、長大路線である線区の特徴や地域の実情などを十分考慮した上で、後志地域全体の将来を見据えながら、住民の皆様への利便性の確保はもとより、様々な観点から地域における議論を重ねた結果、協議会として、昨年3月のブロック会議において、「長万部・小樽間」の全線を「バス方式」とすることを確認したところでございます。</p> <p>道としましては、こうした経過を踏まえながら、今後も引き続き、沿線自治体やバス事業者をはじめ様々な関係者から丁寧にご意見を伺うとともに、後志地域における人流や交通環境の変化を捉えながら、安定的な交通体系の構築に向けて協議を進めてまいります。</p> <p>【交通企画監】</p> <p>次にバス路線の確保についてでございますが、バス事業者は地域の暮らしや産業を支える重要な役割を担っているものの、人口減少等により利用者の減少や燃油の高騰、更には輸送を担う人材の確保とい</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>線も廃止となりました。「攻めの廃線」どころか、当時から指摘されていた全道的なバス運転手不足、これを理由とした路線の減便・廃止は極めて深刻になっています。地域住民の足の確保が大きな課題となっている事態をどう受け止めるのですか。また、今後、どう解決していくか、知事に伺います。</p> <p>2 栗山高校の生徒の通学について</p> <p>夕鉄バス路線廃止の影響で栗山高校の生徒が南幌町からの通学の足を失いましたが、道教委として、どう対応したのか伺います。</p> <p>3 栗山高校の生徒における来年度以降の通学方法について</p> <p>現在、栗山町がデマンドバスを運行していますが、利用している生徒は来年4月以降の運行に不安に感じています。自治体間を移動する交通手段の確保の責任は道と道教委が負うべきではありませんか。来年4月以降の交通手段の対応について、どのようにお考えか知事及び教育長に伺います。</p>	<p>った様々な課題に直面しており、大変、厳しい経営状況にあるものと認識しております。</p> <p>こうした中、道では、安定的に事業継続が出来ますよう国や市町村と協調したバス運行費の補助や、車両維持経費等の臨時的支援を行うとともに、喫緊の課題であります運転手確保に向けましては、合同就職相談会の全道各地での開催や、移住・観光施策と連携した道外PRを実施するなど取組を強化したほか、今後は北海道運輸局とも連携しながら、自衛隊を退職される方々向けの就職相談会の開催などといった取組を行うこととしているところでございます。</p> <p>道としては、引き続き、国に対して、バス路線の運行に必要な予算の確保をはじめ、運転手の雇用環境の整備への支援などを働きかけますとともに、市町村や交通事業者などといった多様な主体とのより一層の連携のもと、地域の実情に応じた地域交通の確保に向けて、取り組んでまいります。</p> <p>【教育長】</p> <p>栗山高校生徒の通学手段の確保についてでございますが、栗山高校では、南幌町からのバスを利用して通学する生徒が複数名いることを踏まえ、栗山町と通学手段の確保について協議をしてきたところであります。</p> <p>栗山町では、本年10月から、南幌・栗山間で通学や通勤などに利用できる「栗山町デマンドバス」を実証運行しており、生徒はこうした手段を活用して通学をしております。</p> <p>【交通企画監】</p> <p>通学手段の確保についてでございますが、夕鉄バスでは、栗山高校への通学に利用されていたバス路線の運行を本年9月末で廃止したところでありますが、栗山町では、通学などの移動手段を確保するため、来年3月までの間、栗山町と南幌町などを結ぶデマンドバスの実証運行を行っているところでございます。</p> <p>栗山町からは、今回の実証運行の利用状況などを踏まえ、来年4月以降の対応を検討すると伺っており、道としては引き続き、町が設置しております「地域公共交通会議」に参画するなどして、デマンドバスの運行に係る助言・協力を行うとともに、交通事業者や関係市町など地域の関係者と連携しながら、通学などに必要な移動手段の確保に取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>【再質】 (一) 並行在来線について 1 次回ブロック会議の開催について 小樽・長万部間の並行在来線についてです。適時適切に対応と言いますが、次回ブロック会議の開催が遅れているのは、事務局たる道に責任があります。道として、どのように役割を果たしていくのか伺います。</p> <p>【再質】 (一) 並行在来線について 2 バス転換見直しについて 昨年3月のブロック会議で全線をバス転換と確認したと答弁がありました。バス運転手の深刻な不足は喫緊の課題であり、バス転換できるのか保障されていない現状となっています。 観光客が戻りつつある小樽市でも12月のダイヤ改正で大幅な減便となっています。大きな理由の一つがバス運転手不足です。この状況からも並行在来線の利便性を確保してバス転換をするというのは実現する見込みは低いと言わざるを得ませんが、見解を伺います。</p> <p>【再質】 (二) 夕鉄バスの路線廃止について 1 路線の減便・廃止に対する知事の見解について 「攻めの廃線」と前向きな言葉でJR夕張支線のバス転換を進めたものの、たった四年半で3路線のバスが廃止されました。全道の地域の足の確保に向けて、鈴木知事はどのように考え、どう対応していくのか改めて伺います。</p>	<p>【教育長】 来年度以降の対応についてであります。道教委では、これまでも、生徒の通学状況等を踏まえ、地域などと連携を図りながら、事業者や関係機関等に対し、学校の教育活動の実情を踏まえた路線の開設や増便といった通学手段の確保に関する要請を行うなど、通学対策に取り組んできたところであり、来年度以降も、南幌町から栗山高校への通学が可能となるよう、地域などと協議をするとともに、各関係機関に要請してまいりたいと考えております。</p> <p>【知事】 道の対応についてであります。現在、後志ブロック会議での議論を踏まえ、関係するバス事業者の協力を得ながら、利用実態や地域の実情を考慮した具体的な運行ルートやダイヤなどに関し、関係者間の協議を進めているところであります。 道としては、次回ブロック会議の開催に向けて、関係者の方々と一層の連携を図りながら対応してまいります。</p> <p>【知事】 次に地域交通の確保についてであります。「長万部・小樽間」における地域交通の確保にあたっては、長大路線である線区の特性や地域の実情などを十分踏まえ、丁寧な協議を進めてきたところであります。 このため、私としては、引き続き、後志地域における人流や交通環境の変化を捉えながら、様々な関係者と検討を深めていくことが重要と考えております。</p> <p>【知事】 最後にバス路線の確保についてであります。道内のバス事業者は、地域の暮らしや産業を支える重要な役割を担っているものの、輸送を担う人材の確保など様々な課題に直面し、大変厳しい経営状況にあるものと認識をしており、道としては、引き続き、市町村や交通事業者などといった多様な主体とのより一層の連携のもと、地域の実情に</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>【指摘】 (二) 夕鉄バスの路線廃止について 2 栗山高校の生徒の通学について 栗山高校の生徒が通学で利用しているデマンドバスは来年度以降も通学可能となるよう取り組むということでしたが、 現在、乗車人数や運行便数が少ないこと、予約が必要なことなど、利用しにくい点について改善を図る必要があることを指摘しておきます。</p> <p>【再々質】 (一) 並行在来線について 次回の並行在来線対策協議会后志ブロック会議の開催が見込んだ時期に開催できない状況に陥っています。道民の生活のための公共交通、特に広域にわたる移動手段を守る責任は北海道が負っています。バス運転手不足は並行在来線周辺自治体にとどまらない全道的な課題です。バス運転手不足を放置すれば、国や道の言う持続可能な地域公共交通の実現自体が成り立ちません。このような状態で議論を進めようとするのは不誠実です。バス転換見直しの決断が遅れることで地域住民が仮に将来的に住みにくい地域になると考えるならば、人口流出が促進される事態につながる恐れがあるのではないのでしょうか。並行在来線バス転換そのものを見直すべきです。見解を伺います。</p>	<p>応じた地域交通の確保に向けて、取り組んでまいります。</p> <p>【知事】 地域交通の確保についてであります。私としては、引き続き、沿線自治体やバス事業者の皆様から丁寧にご意見を伺いながら、後志地域における交通の確保について検討を深めてまいります。</p>